

玉川上水は、江戸に飲み水を運ぶために承応2年(1653年)に玉川兄弟が幕府の命によって開削した水路です。上水沿いには多くの自然が残されていて、植物や小鳥の種類も多く自然観察や静かな散策ができます。上水小橋は、小平市内で玉川上水の降りられる唯一の場所です。(題字の写真は玉川上水。玉川上水駅下車)

紅葉台



新聞

第200号

2025年
9月20日

発行人：関谷 孝

戦後80年 東大和変電所を訪ねて



東大和変電所(戦災建造物・東大和市指定文化財)

今年には戦後80年。各地で戦争の悲惨さを伝える取り組みが行われています。「西の原爆ドーム」と「東の東大和変電所(以後変電所)」と言われるほ

どの戦災建造物が残されているのをご存知でしたでしょうか。正式名は「旧日立航空機株式会社変電所」。多摩モノレールか西武拝島線で「玉川上水駅」で降り徒歩5分。都立東大和南公園内にあります。暑い夏だからこそ、歴史に詳しい植木さんと出かけてきました。

この日は「4つの公園をめぐる歴史ガイドツアー」スタンプラリーをしていました(9月30日まで)武蔵中央公園(大沢掩体壕、旧陸軍輸送機プロペラ)・府中の森公園(米軍府中基地消火栓)・武蔵野中央公園(中島飛行機多摩製作所地下道)があります。

この変電所は、1938年東京瓦斯電気工業株式会社立川工場内の施設として建設されました。1939年には日立航空機株式会社となり、飛行機エンジンを製造。通称「赤とんぼ」と言われた陸軍の練習機のエンジンでした。1944年、アメリカ軍がサイパンを占領しここから日本本土に空襲してきます。国内最大規模の軍需工場だった武蔵野市の「中島飛行機武蔵製作所」や軍需工場が集中している多摩地域に40回もの空襲がありました。変電所は、1945年の2月17日・4月19日・24日・と3回空襲を受け、従業員や動員された学生、周辺住民等多くの尊い命が失われました。生き残った人の証言では、工場襲撃によりたくさんの方が工場内の防空壕で生き埋めになって亡くなったそうです。変電所の正面南側には無数の銃撃痕が生々しく残っています。B29爆撃機が13分に250kgの爆弾を約1900発も投下しました。工場は壊滅し機能を失いました。また、給水塔も一部が解体され変電所の入り口に保存されています。(写真 変電所2階部分)

戦後、工場は平和産業へと転換し、2000年まで操業を続けました。市民グループや元従業員の方々の熱心な保存運動が行われ空襲の痕跡を残す貴重な戦災建造物として保存され現在に至っています。



その後、東大和市は平和の大切さを後世に伝え続けていくため1995年市文化財に指定しました。

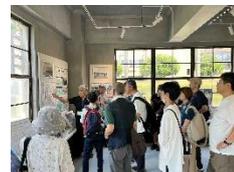
見学した日はセミが騒がしく鳴いていました。改めて戦争の悲惨さと平和への誓いを強く願いました。戦争を

語る人がいなくなると人は何度も同じ過ちを繰り返しますから。皆さんも是非一度は訪れてみませんか。

公開日:水曜日・日曜日(年末年始除く)

公開時間:午前10時30分~後4時

入館料:無料



粕谷和夫の観察日記

7月31日の裏高尾・日影林道歩きの最後・小仏城山山



頂の10m手前でキカラスウリの花に出会い、疲れが一気に吹き飛びました。同じ仲間のカラスウリの方は夜開花し、朝には萎んでしましますが、キカラスウリの方は夜が明けても午前中は咲き続けています。キカラスウリの

根には澱粉が蓄えられていて、その澱粉は天花粉(てんかふん、ベビーパウダー・汗知らず)として昔から利用されています。



酷暑と雨無しの乾燥が続いています。八王子の昨日の気温は40℃を越えました。この写真は8月4日多摩川の河原で撮ったものです。場所は日野市内、毎月1回行っている多摩川の浅川合流付近での野鳥定期



カウント中で一休みした所のエノキです。エノキが半枯れ状態です。エノキは自ら葉を枯らして、葉からの水分の蒸散を少なくして生き延びようとしているのだと思います。八王子市の西北端の上川町の谷戸の田んぼで稲の不耕起栽培を始めたのが2010年、今年で16年目となりました。今は八王子市が



谷戸田を復元した田んぼを借りて、極めて小規模な田んぼで仲間と手作業で稲作りを楽しんでいます。今年は6月に田植えをして8月6日に草取りを行いました。写真左が草取り前、雑草のオモダカが目立ちます。右が草取り後で雑草のコナギが少し残っていますが、この程度であれば稲の生育に影響ありません。この日は猛暑の日中を避け、夕方17時から作業をしました。終了後に近くの蕎麦屋さんで飲んだ生ビールで生き返りました。成熟したゴーヤーです。八王子の里山を歩いていて農家の庭で出合いました。私達は未熟な緑色の果実を野菜として利用していますが、完熟するとこの写真のように黄橙色になります。この完熟したゴーヤーを割ってみると中には赤いゼリー状の果肉が入っています。未熟な緑色の果実は「苦い」ので「苦瓜」とも呼ばれますが、完熟して赤くなった果肉は非常に甘いです。甘くなることによって動物に食べてもらって中の種の散布してもらっていたものと推定されます。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。